

平成21年度「専修学校を活用した就業能力向上支援事業」成果報告書

コース名	③女性対象コース		
事業名	専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業		
法人名	社団法人 高槻市医師会		
学校名	高槻市医師会看護専門学校		
代表者	会長 甲斐 敏晴	担当者 連絡先	事務主査 三浦美帆子 TEL:072-675-0001
1. 事業の目的			
<p>慢性的な看護師不足が継続している現状に、全国に約55万人といわれる潜在看護師のマンパワーに期待が寄せられている。そのため潜在看護師の復職を支援する様々な取り組みが成されている。</p> <p>過去2年間の本事業取組みにおいては、看護職を離れた理由として結婚・妊娠・出産・子育てが多く、離職期間は5～20年、年齢は40歳代が多いとデータから読み取れる。また、受講生のほとんどが再就職を強く希望しており、就職においては非常勤や日勤希望が多かった。一旦現場を離れた看護師にとって復職する場合、壁となるのは最新の知識と技術力、そして現場を離れざる負えなくなった理由との両立である。それらをフォローして自信を持てば、様々な体験を重ねた人材である潜在看護師は復職後大きな戦力となる。本講座を終了した受講者の就業率は75～89%であり、復職に向けて果たす役割はたいへん大きいといえる。また、大阪府下の医師会が協力し看護専門学校という組織を活用することで、ブランクを不安に思う受講者の支援に、より丁寧に当たることができる。そして、地域医療・看護の質を向上させる事に繋がっている。</p> <p>多くの受講者に集まってもらえるよう、事前PRを行い受講者を獲得することが、講座における目的の拡大に繋がると考える。以上が、本事業を実施・継続する目的である。</p>			
2. 事業の実施に関する項目			
①カリキュラムの概要（目的・科目数・内容・期間）			
<p>各看護学校において講義・演習を実施、協力病院で見学・実習を実施した。特に実践力や新しい知識・技術について、学習や経験が出来るように配慮した。</p> <p>開設講座数：1講座 授業時間数：30時間 講座開設期間：平成21年7月30日～8月27日 講座内容：医療・看護の動向、看護倫理、コミュニケーションと患者の心理、看護技術、リスクマネジメント、実習、メンタルヘルス講演</p> <p>応募者数：42名 受講者数：38名 修了者数：38名 受講者満足度（5段階）：大変満足～やや満足 成果報告書提出時点（3月頃）における受講生就職状況（就職希望者数／就職者数（内訳：正規雇用・非正規雇用等））：24/16 非就職者数：14名</p>			

<p>②受講者の募集方法（手法・期間・効果）</p>
<p>受講者募集に当たり、主として下記の方法を用いて広報した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大阪府医師会ホームページ、各医師会ホームページ等で広報 ・ 大阪府医師会ニュースに折込みポスターにて会員に案内 ・ 大阪府男女共同参画課を通じて府下の男女共同参画関連施設へポスターを配布 ・ 各校の市町村発行の広報紙、ミニコミ誌等に掲載 ・ 各校にてチラシを作成し市民へ広報
<p>③受講者の状況</p>
<p>受講者 38 名の内訳は下記のとおりである。 女性：38 名 年齢層：20 代：2 名、30 代：14 名、40 代：15 名、50 代：5 名、60 代：2 名 離職してからの期間： 0～3 年：6 名、3～5 年：2 名、5～10 年：15 名、10～20 年：9 名、20 年以上：5 名</p>
<p>④受講者の意識調査等</p>
<p>受講者の満足度は下記とおりであり、満足を得られたと考える。 大変満足 20 名（54%） やや満足 14 名（38%） 普通 2 名（5%） やや不満足 1 名（3%） （ ）内の%は 37 人を 100%として算出 回収率 90%（37 名）</p>
<p>⑤受講後の状況（修了者数・就職率）</p>
<p>受講者 38 人中、38 人が規定の出席時間数を満たしたため、受講修了証書を交付した。 修了者のうち、再就業者は 16 名、再就業予定者は 8 名である。 （平成 22 年 2 月現在）</p>
<p>3. 事業の評価に関する項目</p>
<p>①当初目的の達成状況</p>
<p>受講者の満足度は 92%である。講座終了後の再就業率は 42%、就業予定者は 21%であり、講座の目的は達成したと考える。</p>
<p>②事業の成果及び改善点</p>
<p>主な成果は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ブランクのある受講生のため、不安が強い項目「リスクマネジメント」「医療事故・過誤」「院内感染」等は講義で、看護技術項目は演習で扱い、その後、臨地における実習で現在の看護の現場を感じてもらうことは不安の軽減に繋がった。特に看護技術には時間を掛けると同時に実習病院でも丁寧に指導してもらった。その結果、アンケートからは満足という評価が読み取れた。同時に、受講者の希望として病院実習の時間を増やしてほしいなどの要望を引き出した。全体スケジュールの見直しや工夫につなげたい。 2) 最近の医療や看護を取り巻く環境に対しても不安があると考え、開講式や閉講式では「医療や看護の動向」「人間関係」を一斉講義形式で実施した。パワーポイントや資料を用いることで理解が得られ満足感に繋がっている。今後も継続する必要がある。 38 名の受講生全てが修了証書を受領しており、上記の成果については全員の受講生が享受されたと考える。

③次年度以降における課題・展開

- 1) PR 方法の工夫。認可が下りてから実施までの期間が大変短い点で、各市の広報、各校のホームページ、医師会の折込みチラシ等を活用し募集したものの、周知になかなか繋がらず昨年より受講者の減少した要因と考える。PR に使用できる限られた予算の中で、どんな PR 手法を選ぶかが鍵となる。
- 2) 開講式・閉講式実施場所への集合については参加度が低くなる傾向があり、プログラムの再考も含め開催場所の工夫が必要である。
- 3) 学校における講座と臨地での講座の割合等については、受講生から病院実習を増やして欲しいなどの希望もあるため、受講生の事前希望などを取り入れて改善していく必要がある。

④成果の普及

平成 21 年度大阪府医師会医学会総会において 11 月 8 日に示説形式で成果報告した。